

● 活動目的

1. 当院の登録は二次救急であるが、現実には一次から三次救急まで対応している。それらに対応する院内救急部門(救急科)の診療を円滑に運営し、救急医療の質の向上を図ること。
2. 院内救急の充実を図ること
3. 岡山県災害拠点病院指定に伴う災害時の院内外医療体制の整備を図ること。

● 活動状況

主に以下の活動を行っている。

1. 救急運営対策室会議開催(不定期月 第4金曜日 2019年度は5回開催)
2. 年末年始、ゴールデンウィーク等の連休における救急外来の運営対策
3. 院内急変患者の診療状況の分析とそれに基づく院内救急の改善の検討
4. 救急車の物品点検(毎月第3金曜日)
5. 初期研修医対象院内 ICLS コース等の急変対応コースの開催・誘致
6. 対外的活動・定例会議出席
 - 1) 岡山県南東部メディカルコントロール協議会
 - 2) 岡山市救急業務連絡協議会
 - 3) 岡山県救急医療情報システム運営委員会
7. 救急救命士実習受け入れ(岡山市消防局、救急救命九州研修所 各1名 計2名)
8. 職員を対象とした小児救急医療の講習の協賛(副師長会や6B病棟、小児科が主催)
9. 職員を対象とした心肺蘇生講習。とくに医師看護師以外への PUSH 講習会開催
10. その他、多角的視点からの院内救急改善の検討

2019年度の救急関連統計は救急車受入れ台数は続伸し過去最高の3515台であった。また、救急患者延べ数は19906名(前年比+227名)と前年より増加したものの、緊急入院患者数は5682名(-123名)、救急紹介患者数は3333名(-107名)とやや減少した。一方、救急車応需率は89.7%と前年度の88.5%からさらに上昇した。

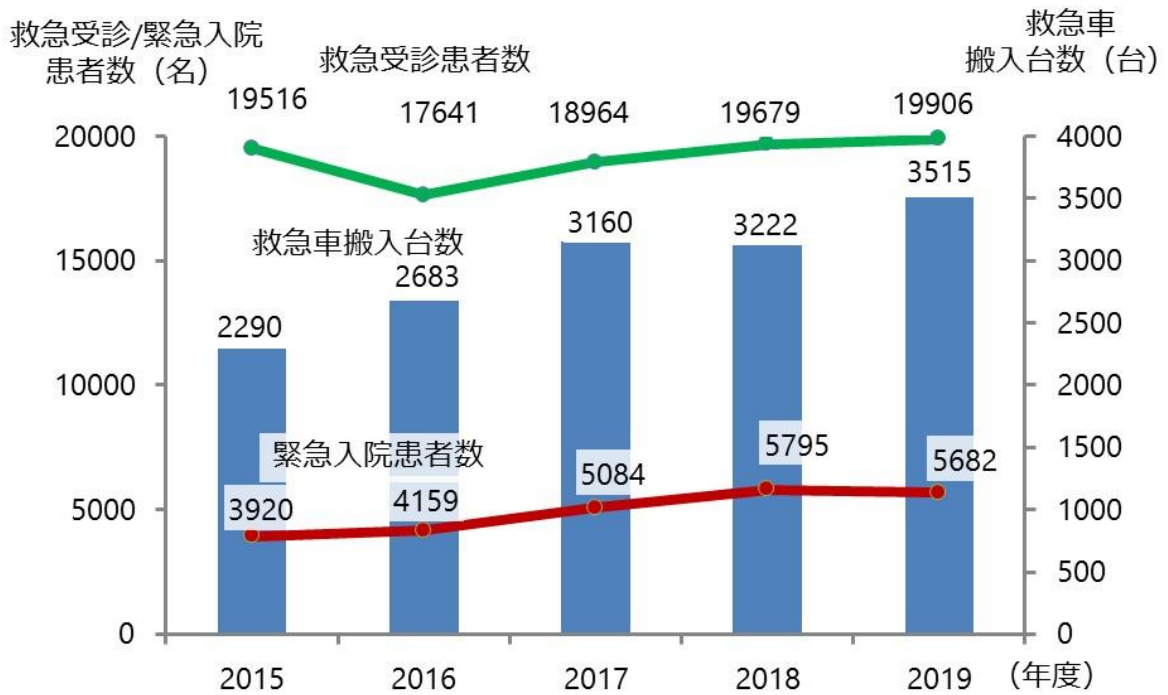
また、近年、海外(中国、ベトナムなど)からの就労者や観光客の救急外来受診が増加してきていて、診療の際に日本語、英語によるコミュニケーションがとりづらい患者も少なくない。そのためポータブル翻訳機である「ポケットク®」を2台導入し、診療に役立てている。

救命講習会については、例年、放射線科技師に対して一次救命処置(BLS)の講習を行っているが、本年度はそれに加えて臨床検査技師に対してもBLS講習(PUSH講習会)を行った。また、病院フェスタで、西2病棟看護師の協力のもと、一般市民に対してPUSH講習会を2回開催した。

その他、救急外来のコスト漏れ対策、検査未実施項目の事務および電子カルテ上の中止表示のための手続き、ヘリポート運用の見直しなどについて議論、報告を行った。

新型コロナウイルス感染症対応については院長直轄のCOVID-19外来対応チームで議論、決定されており、その内容について当室に報告があり、意見を提示した。

救急受診患者数・救急車搬入台数・ 緊急入院患者数



2019年度 月別救急患者数

